



2025.2.12

2025年3月期 第3四半期 決算説明会資料

セイノーホールディングス株式会社 (9076)

目次

01

2025年3月期 第3四半期 決算概要
～大幅な増収・増益を実現

02

輸送事業について
～着実な単価上昇

03

資本政策について
～最大418億円の自己株式取得を発表

本日お伝えしたいこと



- 2025年3月期第3四半期は、**売上高11%、営業利益20%の増収・増益**となりました。MDロジスの新規連結、自動車販売事業の好調などが貢献しました。MDロジスを除いても、増収・増益（売上高約5%、営業利益13%）となりました。
- 主力の輸送事業の特積みにおいては、第2四半期の駆け込み需要の反動もあり、物量は減少しましたが、1月以降、減少幅は縮小しつつあります。単価も105%と順調です。1月より個建契約のお客様との交渉を開始し、Kg単価の更なる上昇を見込んでいます。
- 2月3日に最大418億円の自己株式の公開買い付けによる取得を発表しました。公開買い付けの成立により、発行済株式数は11%減少し、EPSやROEが上昇し、一株当たり株主価値の向上につながります。
- 来年度については、景況次第ではありますが、①MDロジス連結のフル貢献、②自己株式取得のフル寄与（11%のEPS増加要因）、③追加施策による適正運賃の広がりにより、ロードマップの目標に向けて加速させていきます。成長投資とのバランスではありますが、株主還元についても、引き続き、可能性を検討してまいります。

KARATE1プレミアリーグ
パリ大会に出場した
西濃運輸空手道部



01

2025年3月期 第3四半期 決算概要
～大幅な増収・増益を実現

P / L : 増収・増益



MDロジスの連結化効果や自動車販売などが順調に推移し増収・増益

単位:百万円	23.12	24.12	前年同期比	通期進捗率
売上高	486,767	541,684	+11.3%	74.1%
売上総利益	57,326	65,217	+13.8%	
(粗利益率)	11.8%	12.0%	+0.2pt	
販売管理費	36,767	40,503	+10.2%	
営業利益	20,559	24,713	+20.2%	74.5%
(営業利益率)	4.2%	4.6%	+0.4pt	
親会社株主に帰属する 第3四半期純利益	13,161	14,192	+7.8%	72.0%

売上高

(MDロジス除く)
前年同期比 +11.3% 前年同期比 +4.9%

MDロジスの新規連結化による効果(31,013百万円)や、自動車販売事業などの増収も加わり、54,916百万円の増収

営業利益

(MDロジス除く)
前年同期比 +20.2% 前年同期比 +13.2%

自動車販売事業での増益(1,450百万円)やMDロジスの新規連結化による効果(1,440百万円)などもあり、4,154百万円の増益

第3四半期純利益

(MDロジス除く)
前年同期比 +7.8% 前年同期比 ▲3.4%

中間期までの持分法投資損失や固定資産処分損などの発生に加え、第3四半期期間に持分法投資損失が344百万円増加したものの、MDロジスの新規連結化による負ののれん(1,173百万円)の計上もあり、1,031百万円の増益

事業の概要：全事業で増収・増益



単位:百万円	売上高 (前年同期比) 【通期進捗率】	営業利益 (前年同期比) 【通期進捗率】	24.12 事業概況	KPI
輸送事業	403,172 (+13.0%) 【73.2%】	16,796 (+24.1%) 【67.5%】	<p>売上高 第2四半期の駆け込み需要の反動もあり、物量は減少したものの、適正運賃収受の進展による単価上昇は継続、MDロジスの新規連結化の効果が加わり大幅増収 (MDロジスを除く前年同期比：+4.3%)</p> <p>営業利益 コストコントロールに努めたこと、MDロジスの新規連結化の効果も加わり増益となったものの、第3四半期での物量減少の影響もあり、非効率な部分が残った。 (MDロジスを除く前年同期比：+8.8%)</p>	<p>特積 前年同期比 物量 99.3% (西濃運輸：一般+ミニ) (グループ：99.2%) kg単価 103.8% (西濃運輸：一般) (グループ：103.5%)</p> <p>ロジスティクス 前年同期比 売上 132.7% (発送運賃除く)</p> <p>貸切 前年同期比 売上 104.6% (西濃運輸 106.7%)</p>
自動車販売事業	88,000 (+7.6%) 【77.4%】	6,441 (+29.1%) 【98.5%】	<p>売上高 乗用車販売は、新車販売台数は減少したものの、高価格帯の新型車種の販売が好調であったことに加え、中古車流通の盛り上がりやトラック販売台数の増加もあり増収</p> <p>営業利益 乗用車新車・中古車販売での粗利率の上昇や、車検・メンテナンスなどの利益の増加により増益</p>	<p>新車販売台数 前年同期比 乗用車 12,969台 (91.4%) トラック 1,986台 (115.7%)</p>
物品販売事業	29,089 (+6.4%) 【78.7%】	951 (+11.7%) 【82.3%】	家庭紙販売が好調であったこともあり、増収・増益	
不動産賃貸事業	1,742 (+4.1%) 【76.5%】	1,278 (+4.1%) 【76.3%】	既存賃貸物件の賃料改定効果などもあり、増収・増益	
その他	19,678 (+2.9%) 【71.4%】	1,433 (+15.2%) 【88.7%】	情報サービス業や住宅販売業などの伸長により、増収・増益	

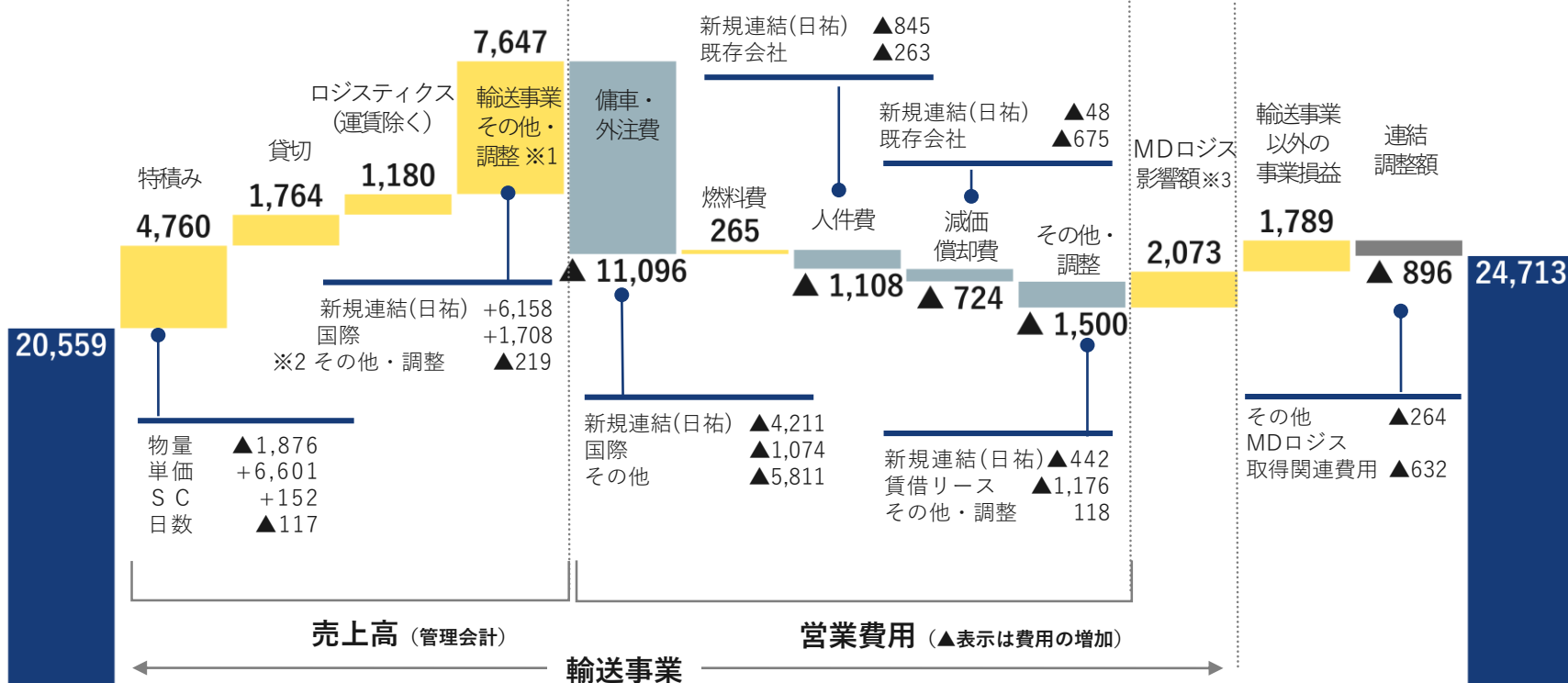
連結営業利益の増減要因（前年同期比）



輸送事業は、物量減や傭車・外注費等の増加はあったものの、適正運賃收受の進展やMDロジスの新規連結などの効果もあり増益、自動車販売事業などが順調に推移し、連結営業利益も増益

（影響額が大きいため、売上高・営業費用よりMDロジスを除外し、MDロジス影響額に計上しております）

（単位：百万円）



※1 便宜上、輸送事業全体の売上増減額から、特積み・貸切・ロジスティクスを差引した数字を、輸送事業その他・調整に記載しております。
 ※2 ※1の数値より、新規連結および国際による影響額を差引した数値を記載しております。
 ※3 MDロジス分は、売上高・費用とも計上せず、輸送セグメントでの利益のみを記載しております。

営業費用



新規連結を除いた営業費用の増加率（3.5%）は、
コストコントロールにより、売上の増加率（3.6%）を超えていない

単位:百万円	23.12	24.12	前年同期比	コメント
人件費	163,852	171,204	+7,352 (+4.5%)	輸送事業（新規連結） 6,988百万円 輸送事業（新規連結以外） 263百万円 輸送事業以外での増減 101百万円
燃料費	13,867	13,748	▲118 (▲0.9%)	輸送事業（新規連結） 156百万円 輸送事業（新規連結以外） ▲282百万円 輸送事業以外での増加 8百万円
減価償却費	15,949	17,389	1,440 (+9.0%)	輸送事業（新規連結） 805百万円 輸送事業（新規連結以外） 675百万円 輸送事業以外での増加 ▲40百万円
備車料・取扱手数料・外注費	135,289	161,040	+25,751 (+19.0%)	輸送事業（新規連結） 18,866百万円 輸送事業（国際運送原価の増加） 1,074百万円 新規連結・国際以外での増加 5,811百万円
その他	137,248	153,585	+16,336 (+11.9%)	輸送事業（新規連結） 7,527百万円 商品仕入原価の増加 6,616百万円 賃借・リース料の増加 1,173百万円
営業費用合計	466,207	516,970	+50,762 (+10.9%)	新規連結による増加：34,343百万円（+7.4%） 新規連結以外の増加：16,419百万円（+3.5%）

バランスシートの状況

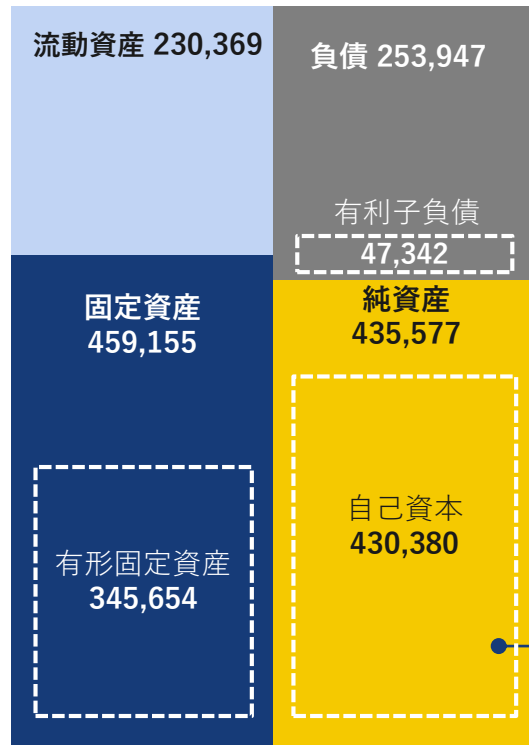


MDロジス連結化もあり、総資産が86,441百万円増加
資産効率を意識していきます

(単位：百万円)

2024年3月末

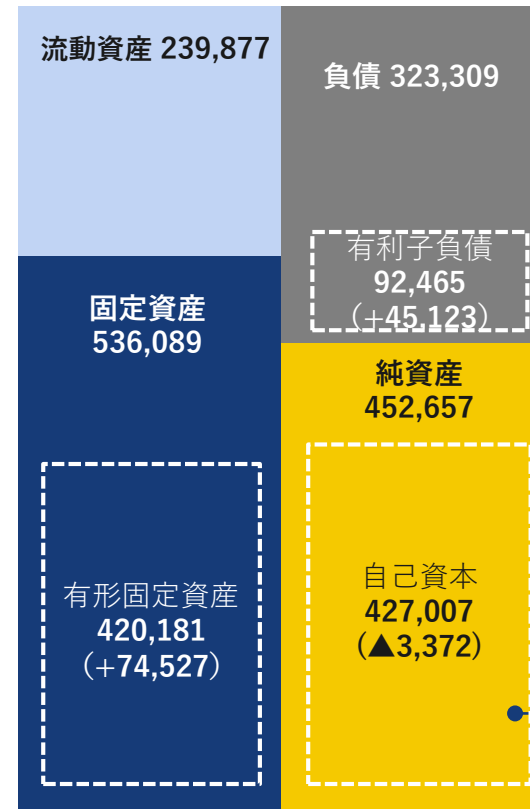
総資産 689,525百万円



自己資本比率
62.4%

2024年12月末

総資産 775,966百万円 (+86,441)



自己資本比率
55.0%
(▲7.4pt)

02

輸送事業について ～着実な単価上昇



格納コンテスト2024
最優秀賞 大阪西支店



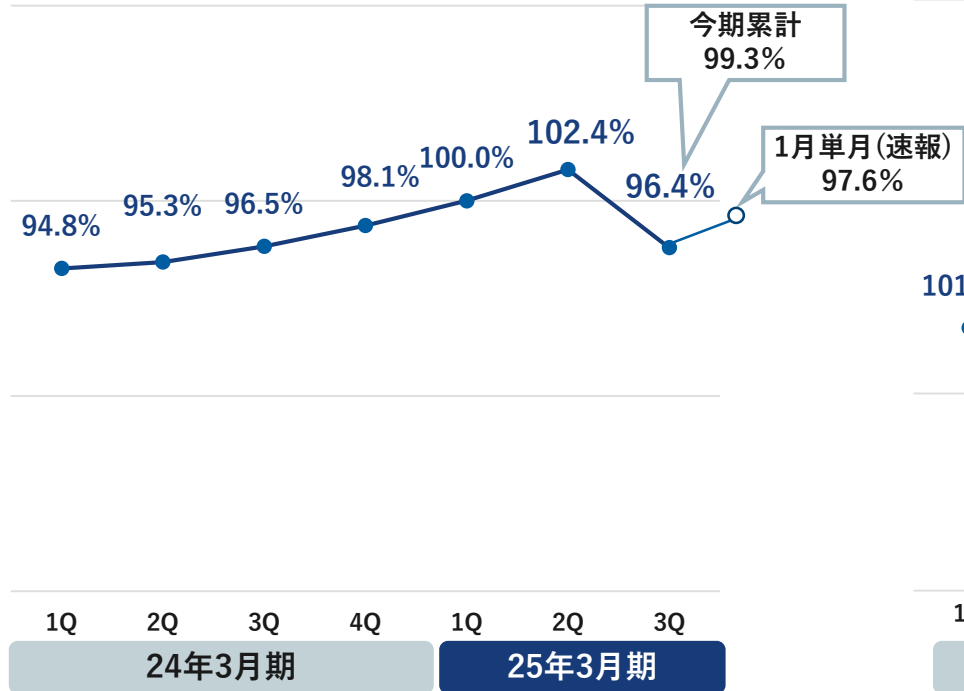
特積み：物量・単価の状況

10月に広範囲での商品価格の値上げ影響もあり

第3四半期の物量は減少

日当たり物量（前年同期比）

(集計：西濃運輸 一般+ミニ便)



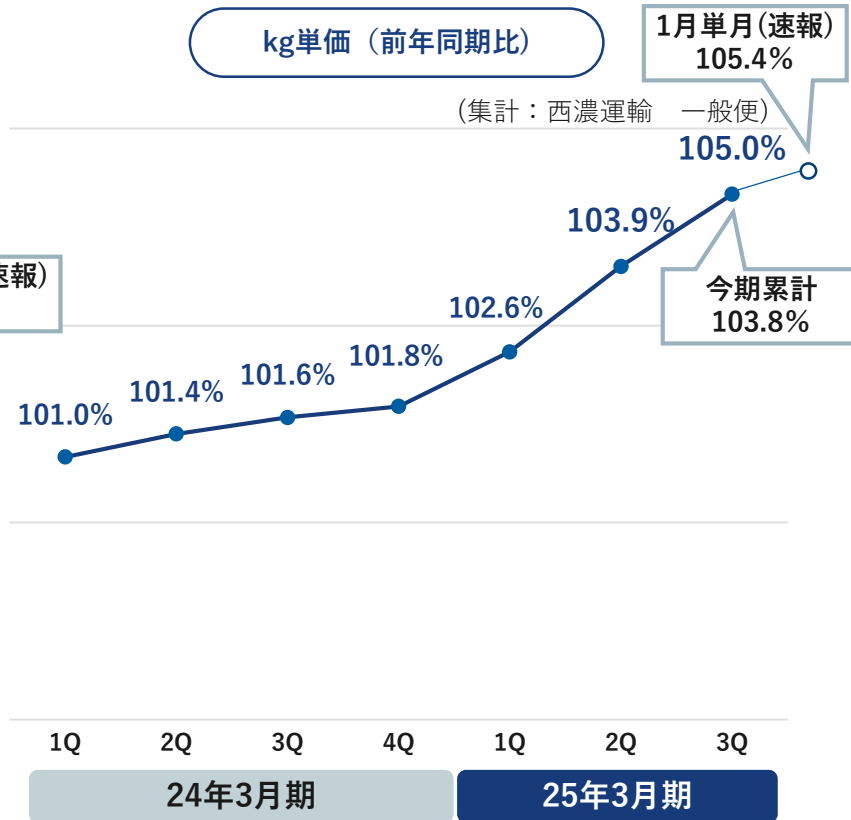
適正運賃收受の追加策として

個建契約※の運賃改定を推進していく

※ 距離×重量ではなく、個数あたりでの運賃契約

kg単価（前年同期比）

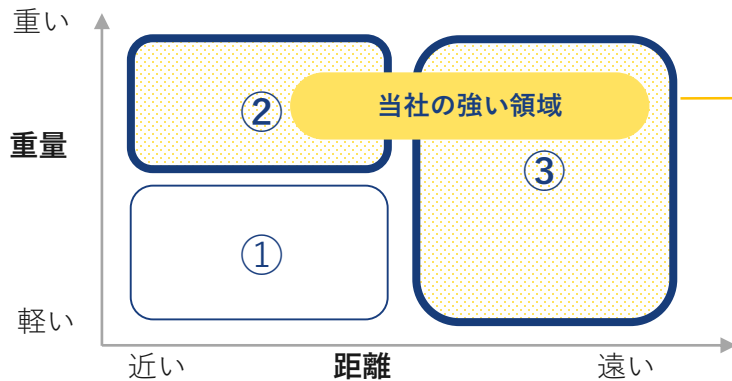
(集計：西濃運輸 一般便)



重量・距離帯別の分析（西濃運輸）



重量・距離帯別領域



(集計：一般+ミニ) (集計：一般)

重量・距離帯別 前年比 (4-12月)

重量帯／距離帯	日当り物量	kg単価
①300kg以下／500km以下	98.3%	103.2%
②300kg超／500km以下	100.8%	105.1%
③500km超	99.4%	104.2%
全体	99.3%	103.8%

物量(4-12月)

想定 99.4% 実績 99.3%

- ・ 2Qの駆け込み需要の反動などにより 総体的に物量が減少
- ・ 競合が多い①の軽量近距離帯が減少
- ・ 優位とする中距離帯②③の下げ幅が緩衝し 全体物量の想定を保持

単価(4-12月)

想定 103.3% 実績 103.8%

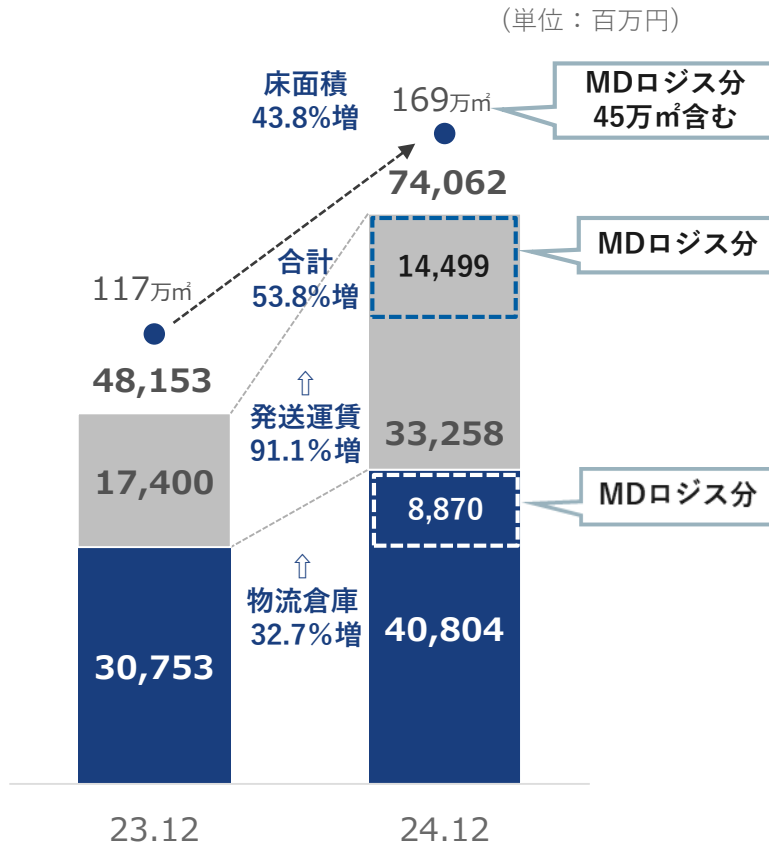
- ・ 営業プランナーによる継続的な交渉により、大手荷主中心の改定政策が引き続き寄与
- ・ 改定件数も堅調に推移
- ・ 運賃収受率も継続して上昇

ロジスティクス・貸切事業の状況



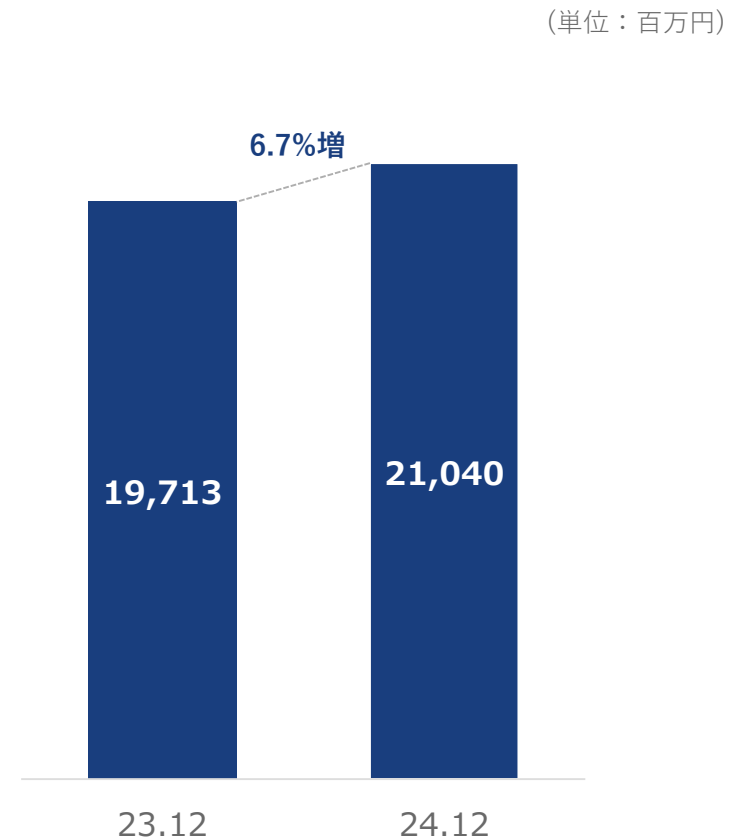
ロジスティクス | 売上高 (管理会計)

下期からMDロジスに加わり
売上・床面積とも大幅に増加



貸切 | 売上高 (西濃運輸：管理会計)

ハコベル機能の利用拡大もあり、
貸切の売上高は6.7%の成長



横浜こども保育園で
交通安全教室を開催



03

資本政策について
～最大418億円の自己株式取得を発表

最大418億円の自己株式取得を実施します



自己株式の処理について

自己株式の保有は、発行済株式数（自己株式含む）の10%を上限目安とする基本方針です。公開買付けが成立すると発行済株式比で18%程度となります。今後の業界環境や資本政策の柔軟性を鑑み、EPS成長やROE向上など企業価値向上に資するかどうかを基準に、消却も含めて今後の取締役会で議論をしてまいります。

ロードマップ2028で掲げているROE8%実現に向けて、2024年3月期の300億円に加え、今回、公開買付けにより、最大418億円の自己株式を取得します。

取得株式の上限は20百万株、発行済株式数の11%です。既に、政策保有株主9社（合計保有株数19.5百万株）から応募意向をいただいています。

買付価格は、1月31日までの1ヶ月間の終値の単純平均値より10%低い水準の2,091円です。

自己資本の減少により、EPSやROE等の資本効率の向上に寄与し、株主価値を向上します。

自己株式取得で一株当たり価値を高めます



今回の自己株式取得による株主価値向上は、26.03期以降の一株当たり価値に貢献

(前提) 応募予定株主からの買付予定分 19.5百万株※ 買付価格 407億円※
発行済株式数 (自己株控除後) 11%程度減少

※取得上限は、20百万株 買付価格 418億円

- EPS 通年換算で11%程度の向上効果 (26.03期フル寄与)
- ROE 自己資本 (分母) が9%程度減少することによる押し上げ効果
(例えば、従来株数でROE5%であれば、0.5pt程度の改善効果 26.03期以降)
- 配当 PBR1倍未満での自己株式取得によりBPS (一株当たり純資産) が高まるため、DOE4%の配当方針の下、理論上は若干のDPS (一株当たり配当金) 増の余地が出る。(ただし、現時点では配当予想は不変)

26.3期のEPS向上に向けて (現時点での要因分析)



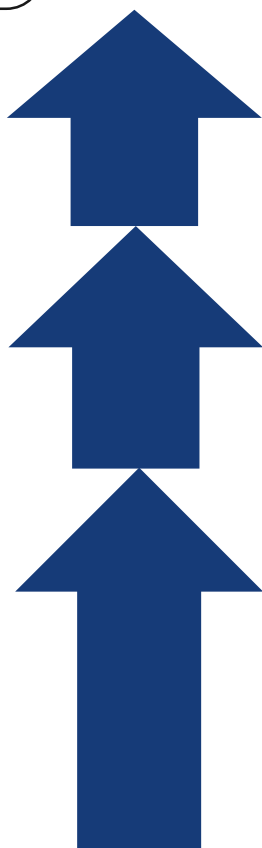
26.3期の業績予想は5月の4Q決算で発表させていただきますが、リスク要因に対処しながらロードマップの成長の実現に近づけます

増加要因

適正運賃收受効果
(進捗と通年貢献)

MDロジス連結の
フル寄与

自己株式取得による
EPS11%増加

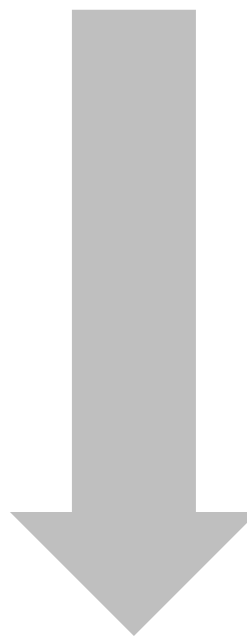


リスク要因

景気変動に伴う物量の減少・適正運賃收受の遅れ

競争激化により想定よりも値上げが進まないこと

コスト上昇 (燃料費・備車費など)

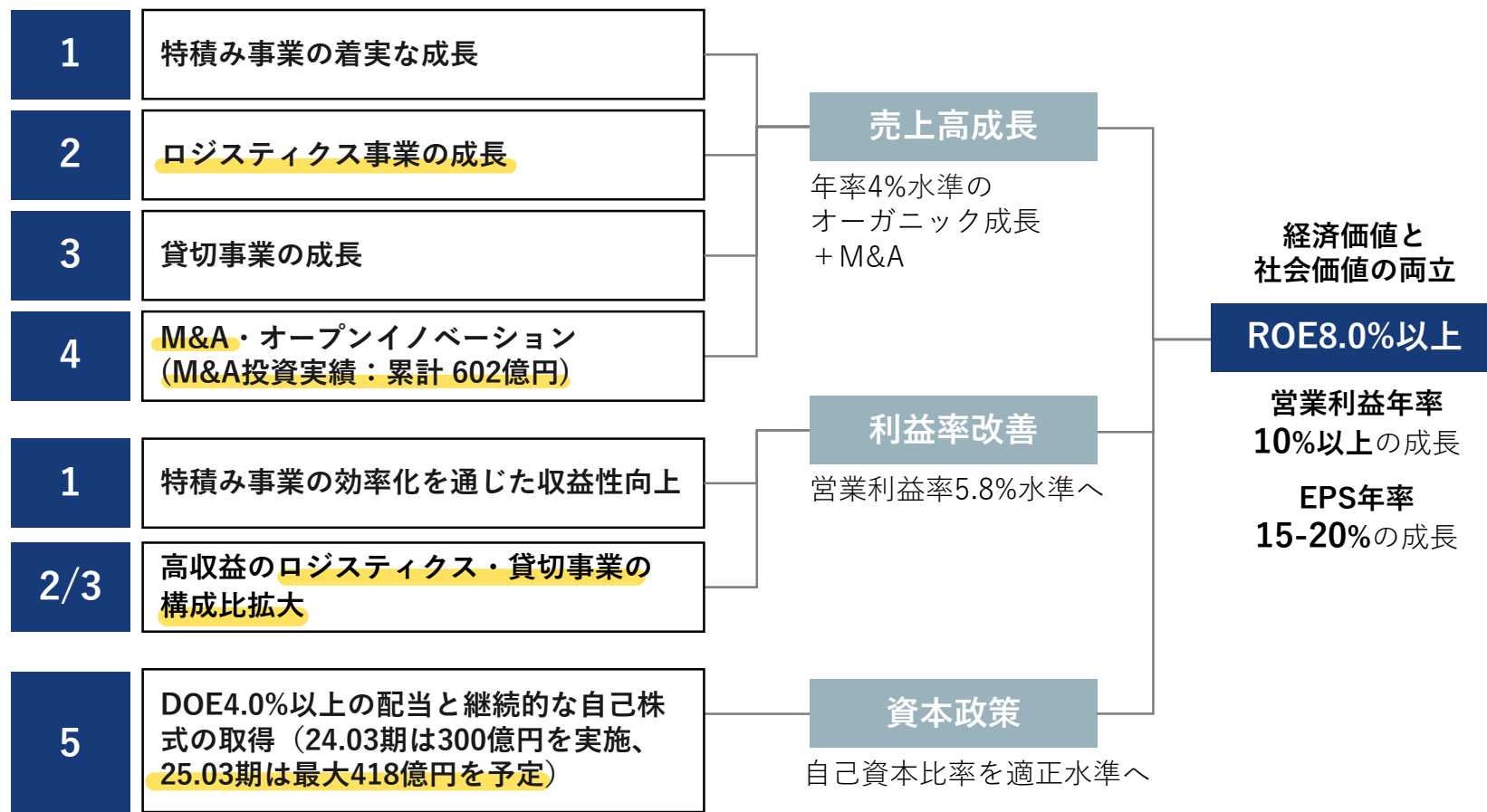


逆ROEツリー フォローアップ



ロジスティクス分野での大型M&Aと、最大規模の自己株式取得を実施

ROE改善のドライバー



資本政策によるバランスシートの変化



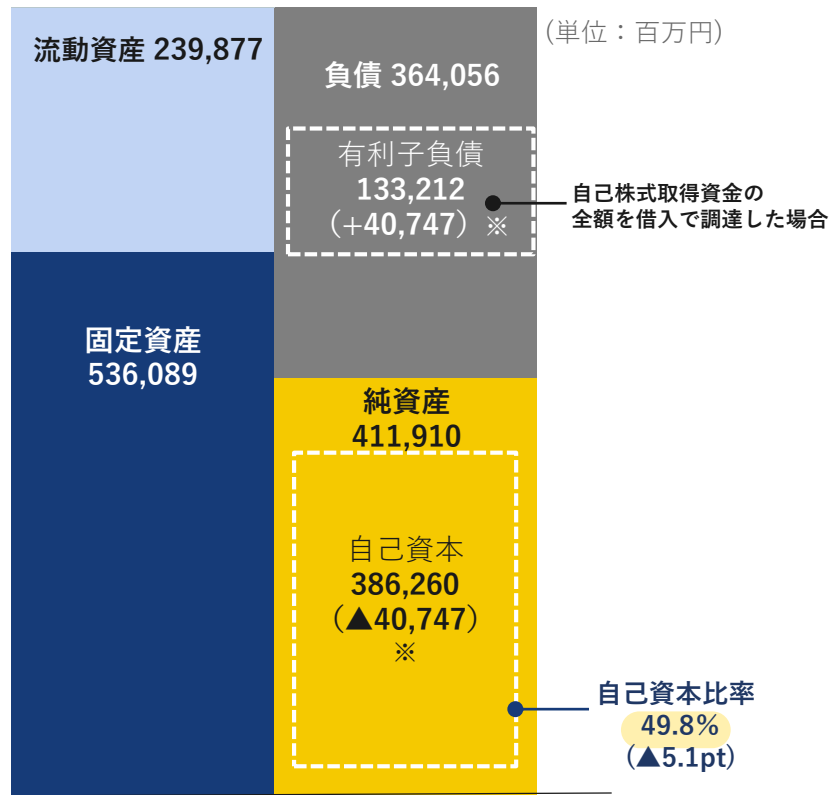
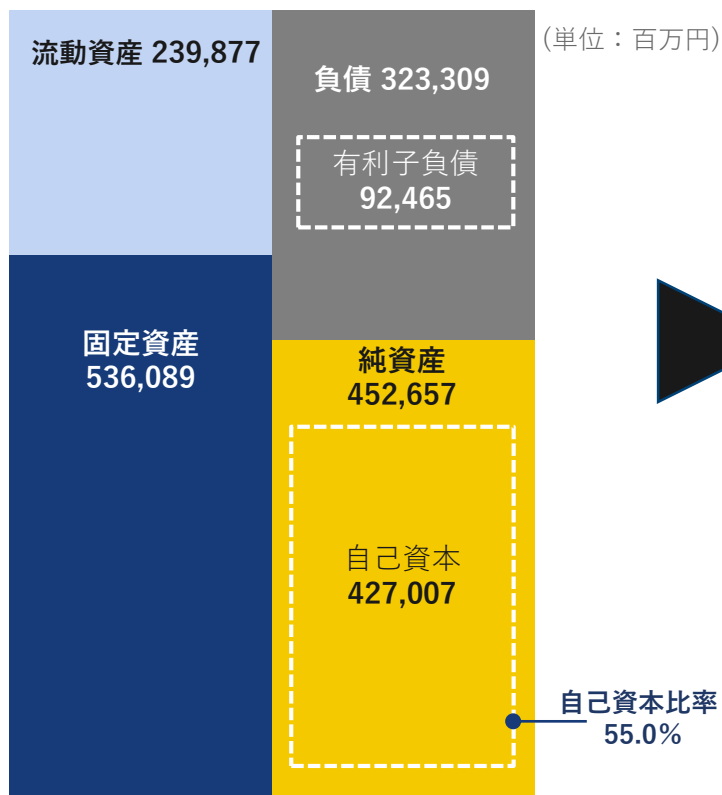
自己株式取得後、自己資本比率は約50%へ

2024年12月末

2024年12月末 B/S からの変化

総資産 775,966百万円

総資産 775,966百万円



※ 公開買付け応募予定株主の所有分(19.5百万株：40,747百万円)を取得する想定で試算しております。

おわりに



- 今回の自己株式取得により、来期のEPSは11%増加となりますが、更なるEPS向上に向けて、リスク要因はありますがこれらに対処しつつ、適正運賃収受の推進、MDロジスグループの連結貢献を進め、早期のPBR1倍の実現につなげて参ります。
- 取得予定の最大418億円の自己株式については、今後の業界環境の動きや投資資金ニーズ、資本政策の柔軟性を鑑み、EPS成長やROEの向上など企業価値向上に資するかどうかを基準に、消却も含めて今後の取締役会で議論をしてまいります。
- ロードマップ2028の目標に向けて、成長投資とのバランスを考えながら、株主還元についても、引き続き可能性を検討します。
- 2024年問題の課題に対して、業界が一致団結となりTeam Green Logisticsに取り組み、少しずつ成果が表れてきています。さらなる生産性向上に向けて、取り組みを強化します。
- 引き続き、皆さまとの対話も強化してまいります。

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

お問合せ先

セイノーホールディングス株式会社

〒503-8501 岐阜県大垣市田口町1番地

TEL : 0584-82-5023 FAX : 0584-82-5043

<http://www.seino.co.jp/seino/shd/>

E-mail : i.r@seino.co.jp